

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和4年6月24日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから6月24日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、2ページ目の6月30日の（6）特定兼用キャスクの型式証明の審査会合です。

議題は、日立造船の案件ということになりまして、前回3月29日から引き続きということになります。

次が、6月30日の（7）1F（福島第一原子力発電所）の事故分析検討会です。

議題は3つありまして、1つ目が、1号機の内部調査と書いてありますがけれども、ロボットカメラの映像とか中性子の測定などを行ったものの状況について説明があります。既に公表されているもので、改めてこの場でも説明ということのようです。

2つ目が、非常用ガス処理系配管の撤去ということで、ここには事故当時のガスなどの試料が残っているので、事故調査にとっても重要な作業というこのようではありますが、その状況が、これも東電から報告がされます。

3つ目は、2号機の建屋内調査と書いてありますがけれども、これは先日来、山中委員が何度か1Fに現地調査に行ったその状況などの報告ということになります。

次が、3ページ目に行きまして、7月1日の（8）第1057回の審査会合です。

これは自然ハザード関係の会合になります。議題の1と2は東通と大間の審査スケジュールの確認ということで、審査会合の間が空いてきたので、スケジュールの確認をするということのようです。

議題の3つ目は泊で、これまで議論を行ってきました津波についての検討方針と、全般的な今後のスケジュールの確認ということのようです。

議題の4と5が、川内と玄海の標準応答スペクトル、震源を特定せずの関係で、前回5月20日のコメントへの回答ということになります。

次が、7月1日の（10）行政事業レビューの有識者会合です。

これは第3回と書いてありますがけれども、今回まで3回やりまして、今回で全20件の事業のレビューをひとわり終わるとということになりまして、あと1回、第4回で全体のまとめみたいなことをした上で、7月の終わりぐらいに委員会に報告するという予定にな

っています。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

では、ヨシノさん、お願いします。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

福島第一原子力発電所における事故分析の会合のほうですけれども、山中委員が入られた2号機、何か新しい映像・画像の類いは出てくるのでしょうか。

○黒川総務課長 新しいのは特になくて、これまでのものを改めてこの場でまとめて報告ということになります。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—